

## <中医薬排斥運動に関する記事>

### 中医薬の廃棄に業界が反対 広州でフォーラム

---

「炎帝神農中国医薬（中医薬）発展フォーラム」が12日、広州市で開かれ、中国伝統医薬業界から代表約500人が参加した。フォーラムでは「中国伝統医薬発展広州宣言」が発表され、中国伝統医薬の廃棄に断固とした反対を示した。新華社のウェブサイト「新華網」が伝えた。

「宣言」には、むやみな「西洋化」への反対、科学技術革新の堅持、知的財産権の尊重などが盛り込まれた。中国国内ではこのところ、「中国伝統医学の廃棄」を唱える人が出ている。中国工程院院士（アカデミー会員）でもある浙江大学薬学院の李連達院長は、「中国国民の病気予防のうち、中・西洋がそれぞれ半分ずつを占めており、中国の人口の約半数は中国伝統医薬のサービスを受けている」と述べる。しかし李院長は同時に、中国伝統医薬には内的・外的不安が両方あり、発展に不利になっていると認めた。中国医薬は独自革新力が足りず、学術体系も発展が待たれる。「中国医薬は国際的にも残念な地位にあり、100以上の国と地域に市場はあるものの、世界の医薬、保健品の主流に参入することは常態的に難しい状況」という。

「人民網日本語版」2007年5月13日

### 発改委：公式サイトで医療改革の「処方箋」求める

2006/10/10(火) 15:50:09 更新

国家発展・改革委員会（発改委）が公式サイトに掲示板を設けて医療改革に関する提言を公募している。第1号の提言は9月27日付だが、10月9日に新華社が自社サイトで紹介してから、各メディアが取り上げるようになった。

発改委はサイト上でまず、第1次5カ年規画に盛り込まれた「人民の健康に深い関心を持ち、医療衛生事業の発展を加速するために、改革を前進させる。人々にとって大きな問題となっている治療費が高すぎるという問題の解決に真剣に取り組む」という方針を改めて紹介。医療改革に関して「人民の痛切な問題にかかわる仕事であり、社会から広く意見と提案を求めることとした」と表明した。

寄せられた提案は10日14時35分（日本時間15時35分）の時点では80件に達した。「長年にわたり臨床医師をとして勤務した」とする投稿者が「医療費が上昇し続けている主な原因は、医療機関が収益を求めるようになったからだ。必要なのは、行政が病院の収支を管理することだ。そうすれば、医療スタッフの報酬も保障でき、全国人民のニーズを満たすこともできる」といった、医療の現場からの声もみられる。

掲示板を利用した提案の公募は12月30日まで続けられる。発改委は、寄せられた

## 「中医薬排斥」の署名活動に反対 中医薬管理局

---

最近インターネット上で、中医と中薬を国の医療体制から「閉め出す」ことを企図した署名活動が行われている。これについて、中医薬産業の行政主管部門である国家中医薬管理局の報道官は「こうした署名活動を展開するのは、歴史に対する無知であり、中医薬の歴史的功績や実際の作用、科学的内容などをむやみに否定するものでもある」と指摘した。

「中医薬は科学的ではない」との見方について、伝統医薬に長年注目し、研究を続けてきた中国科学技術大学の朱清時校長（中国科学院院士）は次のように述べた。

現代科学に支えられた西洋医薬に比べて、中医薬は経験に頼るという素朴な状態になお多くとどまっている。しかしこうした経験は人類の数千年の歴史の中で、数多くの実践を経て証明されたものであり、同じように科学的だ。中医薬の科学性は複雑なシステムを有しており、単純な西洋医薬的方法で判定することはできない。

別の専門家は次のように指摘する。

中医薬をよく知らないことからくる疑いに対しては、もとより断固反対であるが、中医薬への根拠のない入れ込みや、中医薬に存在するさまざまな問題や課題を無視した態度にも同じく反対する。また管理態勢などさまざまな原因により、中医薬の発展そのものにも▽リソースの不足▽サービスシステムの不備▽人材レベルの低下▽医薬品材料の質低下と量不足——といった問題が存在する。これらは中医薬事業の発展を推進する中で、直面しなければならない問題である。

「人民網日本語版」2006年10月18日

<その他の中医薬に関する最近の記事>

(すみませんが時系列になっておりません)

**米国薬局方が上海事務所 中国製薬会社にFDA認証**

2007/08/18(土) 14:06:04 更新

第一財經日報によると、米国薬局方(USP)はこのほど中国上海に出先機関を設立した。中国製原料薬など輸出に必要な米国食品医薬品局(FDA)の認証が迅速化するとみられる。

USPは、米国で医薬品を販売する際の標準制定機関で、世界130カ国・地域で採用されている。FDAも採用しているため、原料薬やサプリメントの対米輸出を目指す中国企業は、USP認証がFDA認証の早道となる。

## 中国の医薬工業生産額、07年は6千億元超へ

2007/09/20(木) 14:17:15 更新

中国国家食品薬品監督管理局はこのほど、国内の医薬工業の2007年の生産額が6000億元の大台を超えるとの見通しを示した。対前年比伸び率は前年を上回る17.8—18.5%となる見込み。20日付で新華社が伝えた。

医薬工業の07年上半年期の生産額は前年同期比21.31%増の2913億2000万元、売上高は同21.75%増の2677億8200万元。伸び率は前年同期をそれぞれ1.29ポイント、1.54ポイント上回った。

市場規模の拡大に伴い、同局は医薬品の安全管理体制確立への取り組みを強化。07年末に麻酔薬、向精神薬など特殊薬品を専門に監視する情報ネットワークを開設し、特殊薬品をリアルタイムで監視する。

## 中国とフランス、中国医薬分野で政府間提携へ

---

中国衛生部の高強部長とフランスのフィリップ・ドゥスト＝ブラジ外相は1日、北京で「中華人民共和国政府とフランス共和国政府の中国医薬分野に関する合意書」に署名した。中医薬の対外交流・協力に関する合意書としては過去最高レベルのもの。中国新聞社のウェブサイト「中国新聞網」が伝えた。

中国国家中医薬管理局とフランス外務省の特使が度重なる協議の上交わした同意書には、次のことが明確にされた。

中国とフランス双方は、中医薬の基礎と臨床研究、研究開発、工業生産、欧州市場での登録、人材育成などで協力し、公募や推薦を通じて、協力内容と実施機関を決定する。

中国とフランス双方は、自国の法律に従い、関係分野の国際基準に依拠し、また中国の中医薬応用での経験と関係法規を尊重し参考とする。

「人民網日本語版」 2007年3月2日

WHO が「中医指南」編集 日韓の専門家も協力

---

世界保健機構（WHO）が2005年から開始していた「中医臨床指南」の編集は、中国医学の基本専門用語と針灸のつぼの位置の基準化が終わり、眼科と腫瘍の2項目の骨組みも完成間近となった。中国中医科学院が22日に発表した。WHOと中国はこのほど、共同で「指南」の編集作業会議を開き、次の作業段階について検討した。

WHO版「中医臨床指南」はWHOが提唱した標準的、国際的な中国医学の臨床実践に関する指導的な文書。「指南」は中国科学技術部の支持を得ており、中医薬学界の専門家が中心となり、日韓などの専門家の協力を得て編集されている。

「人民網日本語版」2006年11月23日

### 中国医薬めぐる技術研究、国が対外協力サポートへ

---

科学技術部、衛生部、国家中医薬管理局は4日、北京で「中医薬国際科技協力計画綱要」を発表した。同計画は、中国政府が提唱した初の国際科学プロジェクト研究計画となる。中国医薬の分野で世界的な国際技術協力プラットフォームを整え、全世界の科学技術を駆使し、中国医薬の現代化を促す狙いがある。

科学技術部の尚勇副部長は、同計画の優先分野、重点内容として次の6項目を挙げた。

(1) 神経精神性疾病、心脳血管疾病、ガン、エイズなどの重大な難病の中国医薬による治療、予防、ケアについて臨床研究を進める。

(2) 国際市場のニーズに適合する現代的重要な製品の研究と開発を促進する。

(3) 中国医薬の国際基準と規範の研究を強化する。

(4) 中国医薬の国際的な科学技術協力のプラットフォームを構築する。

(5) 中国医薬の知識普及を促進する。

(6) 国際的な技術協力を担う人材を養成する。

科学技術部国際協力司のキン暁明司長（キンは革に斤）によると、同部は今年末までに1億元を投じ、重大疾病の治療薬品研究のための国際協力プロジェクト50件を立ち上げる計画だ。さらに、関連部門との協力で特別基金を設置し、外国政府や多国籍企業からの出資を受け入れ、中国医薬をめぐる国際的な技術協力に充てる方針という。

「人民網日本語版」2006年7月6日

## 中国医薬の基礎研究をスタート 投資額 5200 万元

---

国家中医薬管理局は 20 日、中国の重点基礎研究プラン「973 計画」に初めて中国医学の専門研究プロジェクトが設けられ、このほどスタートしたことを明らかにした。同プロジェクトは中国医学理論の基礎研究を中心に進め、国が 5200 万元を投資する。

専門家によると、「973 計画」に中国医薬分野のプロジェクトが盛り込まれるのは、これが初めて。中国医学の基礎研究への国家の支援額でも最大で、国民経済社会発展における中国医薬事業の地位や役割への国の高い認可と重視を表している。

「人民網日本語版」2005 年 7 月 21 日

## エイズ治療に中薬 無料で提供 広西

---

国家中医薬管理局、広西チワン族自治区衛生庁が合同で進める中薬を利用したエイズ治療プロジェクトがこのほど、同自治区柳州市のエイズ治療指定病院でスタートし、HIV 陽性者とエイズ患者計 10 人が中薬の服用を開始した。プロジェクト期間の 1 年間に、HIV 陽性者とエイズ患者約 100 人が治療を受ける予定。同自治区南寧市、百色市でも同様のプロジェクトがスタートしている。治療の希望者は、治療用中薬を無料で得ることができる。

エイズの中薬治療は、中国が重点的に研究を進める分野だ。研究者は中国医学の「内外兼治、剛柔併挙（身体の内外双方向から、荒療治とソフトな治療を併用する）」の精神に基づき、西洋薬治療による副作用の問題をクリアし、高価な輸入薬品による医薬費を引き下げ、より多くの HIV 陽性者とエイズ患者が治療を受けられるようになることを目指している。

「人民網日本語版」2005 年 7 月 15 日

## 中国医薬の国際試験、今年から大幅な制度改革

---

世界中医薬学会联合会は 29 日、中国医薬分野の国際試験が今年から大幅に改革されることを明らかにした。改革に向け、すでに 1 年間の準備が行われている。

国際的な慣例では、各種レベル認定試験や資格試験は一般的に、代理機関が実施している。これに合わせ、現在は政府が主催している中国医薬関連に関する各種国際試験は今後、各国代表で構成される世界中医薬学会联合会と世界針灸学会联合会（本部はいずれも中国）が主催する。また、分野・クラスの細分化を進め、これまで 2 クラスしかなかった資格試験を、5 分野・

のべ21クラスに分ける。これには医師類全5クラス（医師、針灸医師、中国医学整骨科医師など）、薬剤師類全5級、看護師類全4級、教師類全4級、技師類全3級（按摩、美容、足裏反射療法など）が含まれる。

世界中医薬学会聯合会の李振吉副主席兼秘書長によると、過去に発行された資格認定書は今後も有効で、新体系の試験では資格審査の参考に使用できる。国際試験は各国の受験者が対象になることから、さまざまな言語の運用が必要となり、運営の難度も高くなる。このため。試験機関は試験問題データベース蓄積への総合プランをすでに作成し、当面の目標として2万題の作成を決定した。長期的には5万題-10万題のストックを目指す。

「人民網日本語版」2005年6月30日

### 中医薬の衛星テレビネットを開設へ

---

国家中医薬管理局はこのほど、中医薬（中医薬）の衛星テレビネットワークの開設を認可した。開設当初は国内の400、5年後には2000を超す大中規模の中医薬医院をカバーする国内最大の中医薬ネットの構築をめざす。また中医薬による治療経験や、理論的研究の成果などを海外にも公開していく。

中薬の輸出が輸出総額に占める割合は現在、僅か0.003%。中医薬に対する理解不足や偏見があるのがその原因と考えられることから、国家中医薬管理局は海外への紹介を強化することで、こうした状態を打開する方針だ。

「チャイナネット」2004年10月22日

### エイズ中医薬治療基地を建設へ、貧困患者は無料

---

国のエイズ中医薬（中国医学薬）予防治療計画に基づき、国家中医薬管理局は今年から3年間に専用資金を拠出し、河南など全国5つの省で貧しいエイズ患者を無料で治療していく。

同局はまず今年と来年の2年間に2900万元を拠出して河北や河南、湖北、安徽、広東の5省の県・地区にエイズ中医薬治療基地を建設し、患者の無料治療に当たる。

同局は予防治療計画に基づき、医療従事者を育成し、基地建設を着実に進める◇3年以内に2～3つのエイズ治療薬を開発する◇比較的成熟した治療方法を確立する◇基礎研究で突破口を開く◇専門家を育成するとともに、治療の全面的開始する具体策を作成する作業にすでに着手している。

「チャイナネット」2004年3月1日

---

## エイズ治療の中薬を開発、昆明植物所研究グループ

---

「中タイ協力計画」の下でエイズ治療の中薬（中薬）の研究を15年行ってきた中国科学院昆明植物所のロシド（羅士徳）研究グループはこのほど、純天然薬剤の「複方SH」の開発に成功した。価格は西洋薬の10分の1。3期目の臨床試験が先ごろ雲南省科学技術庁の検査に合格し、年内にも市場に出回る見通しだ。SHは世界初のエイズ治療の中薬で、ハイテクを駆使して5種類の薬材を調合した複方薬剤。

ロシド氏は1987年から1000種を超える常用薬草について系統的な研究に着手し、100余種の薬材にエイズウイルス（HIV）の増殖を抑制し、殺菌する作用のあることを確認。1990年には招聘されて米国にわたり、活性の比較的高い中薬の研究に従事、HIVを殺菌する化合物を数種発見した。

1992年、西側諸国でHIV増殖を抑制する数種類の西洋薬が開発された。だが価格が高く毒物・副作用などがあることから、ロシド氏は伝統的な中薬はこの面で優れていると考え、内外の中薬・植物化学・ウイルス分野の専門家と共同で複方中薬のHIV殺菌作用の研究を開始するとともに、薬理・毒物作用、調合工程、品質基準などの検査を行って最良の複方製剤であるSHを開発した。

同グループは2001年、タイで衛生省医薬科学庁と共同で150人のエイズ感染者を対象に3期に分けて臨床試験（治験）を実施。今年6月には最後の治験を終え、7月にタイの副首相が訪中した際に衛生部と雲南省政府に臨床試験の結果が報告された——SHにはHIVを有効殺菌する働きがあり、ウイルスのキャリア量は著しく低下し、T-4細胞を活性化させるほか、人体の免疫力を高め、毒物・副作用もない。単独使用した場合の有効率は98%に達し、西洋薬を併用すれば治療効果は向上する。

「チャイナネット」2003/12/09

---

## 米国、中医薬学を独立の科学体系と初認定

---

米国食品医薬品局（FDA）はこのほど、新たな指導的文書「補充・代替医療製品とFDA管理規定」の第一段階草稿を発表した。その中で、中医薬学を含む伝統医学を補充・代替医療（CAM）から分離し、中医薬学は西洋医学と同列の、整った理論と実践体系とをもつ独立した科学体系であり、単なる西洋医学の補完的存在ではないとする見方を初めて示した。中国中医科学院が2日明らかにした。

中国中医科学院の陳可冀院士の説明によると、FDAの今回の規定は2004年に発表した「植物薬製品規定」に次ぐもの。患者中心の医療モデルに符合し、米国国内での補完・代替医療の急速な発展ぶりに対応するものであるとともに、FDAの中医薬の理念や治療効果に対する評価の高まりや、新薬開発での積極的かつ実際的な立場を示すものでもある。

「人民網日本語版」2007年8月3日

### 中医学と中薬の大型科学普及宣伝活動がスタート

---

中医学と中薬の全国巡回をテーマとする大型科学普及宣伝活動が、7日、北京からスタートした。

この活動は、3年間にわたって、中国各地で順次行われる。民衆に中薬を理解してもらうため、この活動の実行委員会は、大規模な宣伝活動を行うほか、農村部や鉱山採掘場に行って、中薬などを寄贈することになっている。

「中国国際放送局 日本語部」より 2007年7月8日

### 科学技術部長 バイオ経済の発展は「三段階」で

---

科学技術部の万鋼部長は、26日に開幕した「2007年国際バイオ経済会議」の席上、中国のバイオ経済戦略は「三段階を踏む」ことになると明らかにした。

万部長は、次のように説明した。

「三段階」戦略の第一段階は技術蓄積の段階とし、2010年には5000～8000億元規模のバイオ技術産業を形成する。第二段階は産業確立の段階で、2015年にはバイオ産業の生産額を約1兆6000億元にする。第三段階は持続的発展の段階で、2020年前後には完成し、バイオ産業の総生産額を2～3兆元にし、GDPの4%以上を占めるようにする。

今回の国際バイオ経済会議では、中国の医薬バイオ、農業バイオ、工業バイオ、中薬、食品安全など多くの分野から500あまりのバイオ新技術が展示された。その中には、初めて市場に出た遺伝子治療薬、初めて臨床で使用されたSARSワクチン、ヒト用の鳥インフルエンザワクチン、治療用B型肝炎ワクチン、エイズワクチンなど、世界一早い登場になったものも多く含まれている。

「人民網日本語版」2007年6月27日

## 中薬の特許に初の国際認定 英企業と契約

---

中国軍事医学科学院と英国のバイオ製薬企業がこのほど、協力合意書に調印した。英企業は痴呆症に有効な中薬「NJS」の特許使用権を獲得し、米国、英国、ドイツなどの市場開拓を担当する。中薬が特許使用権譲渡の方式で国際市場に進出するのは初めてで、NJSも国外企業に特許が認定された初めての中薬となる。

軍事医学科学院の放射・輻射医学研究所の馬百平研究院をリーダーとする研究チームは、10年以上をかけてNJSの新薬臨床研究を完成させた。同研究はこれまでに、中国、米国、韓国で特許権を取得している。

「人民網日本語版」2007年6月27日

---

## 中薬のエイズ治療効果に対する評価基準制定へ

---

衛生部の王国強副部長（国家中薬管理局局長）はこのほど長沙市で、中国は現在すでに中薬でエイズを治療する場合の評価基準の制定に取り掛かっていることを明らかにした。

現在、エイズの臨床治療においては、中医学にも西洋医学にも統一した治療効果の基準がない。西洋医学では一般にウィルスの存在量で、治療に効果があるかどうかの判断指標にしている。中医学では患者の免疫機能を高め、症状を軽減し、生存の質を高めるという面での治療効果を見る。

2004年に中薬によるエイズ治療のテスト拠点プロジェクトが立ち上げられてから、すでに国家財政より前後して9000万元あまりが投じられており、6000人近くのエイズ患者に無料で治療が行われている。現在、テスト拠点となっている省市区は、最初の5つから15へと拡大されている。

「人民網日本語版」2007年6月20日

---

## 「十一・五」計画、中国医薬産業六つの課題

---

先般、国家発展改革委員会は『「第11次5カ年計画」期間(2006-2010年)における医薬産業

の発展についての指導意見』を公布した。それによると、現代医薬バイオテクノロジーを発展させ、中薬の現代化と天然薬物の発展を引き続き推し進めることは「第11次5カ年計画」期間における中国医薬産業発展の主な課題となることが明らかになった。

中国は現代医薬バイオテクノロジーを発展させ、ハイテクとバイオテクノロジーを応用して医薬産業のグレードアップを促進し、次世代のバイオテクノロジー薬物の開発を加速し、産業化の発展を促すことを目指している。

中国は引き続き中薬の現代化と天然薬物の発展を促すために、中薬のスタンダードと規範を制定し、完備させ、積極的に中薬の新製品を開発し、中薬製造プラントの開発と応用を重視し、国際市場に向けての天然薬物の開発・生産を発展させる。

中国はまた新薬と特色のある非特許薬物の開発を加速することにもなっている。在来の化学原料を使った薬物と普通薬物の生産面での優位性を保ち、全力をあげて特色のある原料薬物及び新薬を開発し、調合剤の国際市場を開拓し、輸出製品の構成を改善し、医薬製品の輸出付加価値を高めることにしている。

『指導意見』はまた、医薬産業の発展にとって望ましい環境を作り上げなければならないとしている。国は医薬や衛生などの分野における体制改革を推し進め、医療衛生に対する資金投下を増やし、医療機関の収入を補償する問題を解決し、根本的に「以薬養医」（薬品の販売によって医療機関を養う）の状況を改めることにしている。

同時に、中国は医薬流通体制の改革を加速し、薬品名に対する管理をいっそう強化し、薬品通用名処方箋制度を実施し、社会の薬品店に開放する処方箋管理制度を制定する。そして、薬品の分類管理の改革も強化しなければならないとしている。

「チャイナネット」2006年9月20日

### 薬剤メーカーの天士力、日本進出めざし交渉中

---

薬剤メーカーの天津天士力集団は6日、日本の医薬品市場に進出する考えを明らかにした。合併・買収（M&A）または委託販売による市場進出を目指し、複数の日本企業と交渉中という。北京の日刊紙「京華時報」が伝えた。

日本の医薬品業界は市場規模が大きく、米国に次ぐ世界2位。同社の閻希軍総裁（社長）は「日本の医薬品市場では、中薬が大きなシェアを占めている」と指摘する。

同社は現在、日本の小企業の買収、または日本の大企業による同社製品の委託販売を模索中で、すでに複数の日本企業との交渉を行った。今回の日本進出に当たり、資金面の問題はないとしている。

閻総裁によると、協力合意が得られた場合、主力商品の心疾患治療薬「復方丹参滴丸」などを日本市場で売り出す予定。非処方箋中薬としての認可申請を計画しているという。

「人民網日本語版」2006年6月7日

### 医療・医薬製品輸出 138 億ドル、主軸は西洋薬原料薬

---

2005年の中国の医療・医薬製品貿易額は256億4千万ドルに達し、うち輸入額は118億4千万ドル（前年比18.5%増）、輸出額は138億ドル（同28.1%増）に上った。商務部が明らかにした。

統計によると、昨年の医療・医薬製品の輸出額のうち、西洋薬原料薬、西洋薬製品、バイオ薬品、医療器械、医療用備品などを含む西洋医療・医薬製品が129億7千万ドルに上り、全体の94%を占めた。最大の輸出製品は前年に続き西洋薬原料薬で、輸出額は全体の57.3%に当たる79億ドルに達した。

中薬類製品（中薬材料、中薬製品、抽出物を含む）の輸出額は8億3千万ドルで、全体の6%を占めた。

「人民網日本語版」2006年2月6日

### エイズ新薬の開発、中薬研究が盛んに

---

伝統的な中の生薬から、エイズ治療の新薬を開発することが、国際的に盛んになっている。1千種あまりの一般的な生薬の中から、エイズウイルス（HIV）を抑制する有効成分を持つ100種あまりがこれまでに発見されている。20日、北京で閉会した第一回中国医薬発展国際フォーラムで明らかにされた。

エイズ治療薬の開発分野では現在、西洋医薬にはある種の限界があることから、伝統的な中薬や植物など天然資源に注目が集まっている。世界でもこれまでに、非常に優れた抗HIV有効成分を持つ天然化合物が数百種見つかっている。最近では、ある学者が、動物や植物による数千種の天然化合物およびその抽出物に対して、有効成分の選別や研究を行い、抗HIV作用を持つ十数種の天然化合物を発見している。

「人民網日本語版」2005年11月22日

## 骨粗しょう症治療の中薬、米基準の臨床試験へ

---

数千年の伝統を誇る中国の中民間薬が近く、米食品医薬局（FDA）の規定に従った、西洋薬剤の基準による臨床試験を、初めて受けることになった。

臨床試験が行われるのは、貴州同濟堂製薬公司の骨粗しょう症治療薬。貴州同濟堂製薬は25日、米 SYNARC 社と臨床試験に関する契約を交わした。臨床試験は中国国内で、FDA の各規定に従って行われ、結果は来年発表される。

「人民網日本語版」 2005年10月26日

## 中国、抗ガン新薬の開発に成功 血管内皮の障害抑制

---

中国はこのほど、新しい抗ガン剤「恩度」の開発に成功した。腫瘍への栄養供給を遮断し、腫瘍の抑制と治療を行うもので、国の重大科学技術プロジェクト「薬物の独自開発と中薬の現代化」、および国のハイテク計画「863計画」の重大な科学研究成果だ。

専門家によると、これは血管内皮の障害を抑制する世界初の抗ガン剤。タンパク類による血管内での腫瘍発生を抑える医薬品の研究分野において、中国が世界のトップレベルに躍進したことを示している。現在、新薬は国家食品薬品监督管理局が一類新薬（中国国内で開発された新規有効成分）に認定し、多項目にわたる独自開発の成果のうち、1件は中国の発明専利（特許）を獲得した。うち2件は国際特許を出願中。

「人民網日本語版」2005年10月21日

## 過去2年間、中薬関連の特許申請が7400件余りに

---

国家食品薬品监督管理局は、この2年間に各地が申し込んだ中薬や新薬の合計、203件に使用許可を出した。また国家知的所有権局は累計で7449件の中薬関連の特許申請の審理をした。

1月31日北京で開かれた「中薬の近代化発展要綱」の実施2周年の座談会で、2002年11月国務院が「要綱」を発表して以来、科学技術を基礎に、中薬の生産技術、生産設備のレベルも大きく向上した。中薬の研究開発システムは、絶えず完備されている。中国では、多くの自主的知的所有権があり、また技術含有量の高い中薬製品を研究開発された。現在、中薬産業は中国で成長の早い産業の一つとなった。

「CRI」より 2005 年 2 月 1 日

### 抗 HIV 有効成分の抽出に成功 中薬研究で

---

中国の研究者が 10 年以上の研究を経てこのほど、中薬からエイズウイルス（HIV）を抑制する免疫活性有効成分だけを抽出することに初めて成功した。深セン市の武大金球中薬現代化工程技術研究センターが 12 日明らかにした。

検証実験により、この有効成分には細胞を保護して HIV への感染を防ぐほか、HIV のコピーの抑制に効果があることがわかった。同成分を入れた細胞培養用プレートでは細胞の 90% がウイルスに感染せず、さらにウイルスの数が目立って減少することが確認された。同成分を含まない細胞培養用プレート内では、ウイルスの影響による細胞の収縮、変形、脱落、破裂といった形態の変化を生じた。

中国の研究者はオーストラリア、日本、ポルトガルで、異なる毒株に対する同有効成分の有効性テストを行い、ほぼ同様の結果を得ている。このことは同有効成分が、世界のさまざまな地域の HIV に対して、いずれも抗ウイルス作用があることを示す。現在、同有効成分は薬理学、薬効学、薬物成分分析など 9 項目の研究を終え、まもなく臨床試験が始まる見込み。

「人民網日本語版」2004 年 12 月 13 日

### 中国が独自開発 抗 HIV 中薬、臨床使用へ

---

中国中医研究院が初めて開発した抗 HIV 中薬「中研Ⅱ号」がこのほど、民間企業・上海三湘集団との協力で臨床治療に使用されることになった。同院は 1991 年、HIV/エイズ治療のための中国医学研究を国内で最も早く開始した。中国医学独特の「弁証論治（中の診断・治療プロセス）」と固定的な処方を組み合わせた臨床治療を 1 万回以上繰り返した結果、「中研Ⅱ号」が最も理想的な治療成果を挙げたという。

「人民網日本語版」2004 年 12 月 1 日

### 「国家中薬産業基地」を建設へ 浙江省

---

国家レベルの現代的な中薬産業基地が、浙江省に設立される見通しだ。建設計画は22日、科学技術部の専門家チームによる検証作業を終了した。同基地では、中薬原料の栽培規範化の研究、適正生産基準（GAP）基地の建設、新薬の開発および産業化、製薬設備の研究および産業化、関連技術のプラットフォーム建設、中薬の品質チェックシステムの確立——などを重点的に進める。

浙江省の関係者は、基地の設立を契機に、中薬原料の生産、中薬産業、中薬研究の3方向から、中薬加工基地の発展を目指す。現代的な中薬メーカーを立ち上げるとともに、中薬の生産技術・製品化・設備の現代化を進め、現代型企业への改革をメーカーの80%以上で実現し、中薬および関連産業の生産額を2010年までに200億元に増やす計画だ。

「人民網日本語版」 2004年11月24日

---

### 中国、10億元を投じ、アジア最大の医薬産業基地を築き上げる

---

投資総額が10億元にのぼる「南寧・ASEAN国際医薬博覧城」（以下「医薬博覧城」と略）プロジェクトが、このほど、南寧市の中国—ASEAN経済パークで始動した。「医薬博覧城」は竣工後、アジア最大の医薬産業基地となる。

このプロジェクトの開発を引き受けた中米共同出資の「広西広益医薬有限公司」も同日設立された。同社社長の廖鈞平氏は、プロジェクトに対しては年末前後に約1億元を投じ、2年以内に総額10億元を投じることになっている。2006年8月までに全面的操業に入る予定。「医薬博覧城」の年間営業収入は1年目は1.2億元、正常に稼動し始めたあかつきには年間平均収入が約2.7億元に達する見込みと語っている。

伝えられるところによると、この「医薬博覧城」プロジェクトは今年4月に広西チワン族自治区発展改革委員会に認可され、中薬を中心とする化学薬品、バイオ製薬、食品、医療設備と医療サービスなどの多角化経営が行われ、栽培、研究、生産、展示、販売、電子商取引、物流、貯蔵及び観光サービスの提供を一体化した現代化、国際化した医薬及び高付加価値食品研究開発センター、製造センター、物流センターと展示貿易のプラットフォームとなり、中国一の医療産業基地を誇る。

医薬の専門家によると、中薬は天然の薬品として名を馳せている。21世紀に入って以来、さらにその「クリーンで、環境にやさしい、副作用が少ない」などの優れた特徴で世界中で歓迎され、中医薬と伝統医薬も国際的な新興産業のひとつとなった。関連データによると、世界全体の中薬年間売上高はすでに160億ドルを上回り、なお毎年10%~20%のスピードで伸びている。2003年における中国の中薬および中薬関連製品の輸出額は6.9億ドルに達し、そのうち中薬は3.32億ドルで、2002年同期比7%増となった。

世界の中薬市場の構造から見ると、現在中国系の人たちによる市場が世界の中薬市場の42%を占めており、中国の中薬の主な輸出先は香港、澳門（マカオ）、台湾地域およびタイ、シンガポール、マレーシア、インドネシアなどASEAN諸国とアメリカ、カナダの中国系社会である。医療、保健、美容などの効果のある中薬はタイでは好評で、ベトナムの一人当たりの中薬消費は10年のうちに10倍に達し、オーストラリア、韓国、ロシア、アメリカ、カナダなどヨーロッパ、北アメリカの国々でも中薬市場の潜在力は大きいと見られている。

「チャイナネット」2004年11月19日

### 中国医学・中薬の古書1千種を整理 科学技術部

---

科学技術部による中国医学・中薬に関する古文書1100種の整理・保護プロジェクトがこのほど、科学技術部の委託を受けた中国中医研究院の専門家チームの審査を受け、合格した。

このプロジェクトは科学技術部が2001年に立案。現存する中国医学・中薬関連の古文書約8千種（同書の異本を1種に数えると約3万種）のうち、宋代（960-1127年）の資料16種、元代（1271-1368年）の資料50種、明代（1368-1644年）の資料389種、清代（1644-1911年）の資料1045種、その他学術的価値の高い貴重な典籍などを対象に整理と保存処置を行う。これまでの研究の結果、「全国中医図書連合目録」などの図書目録資料には、記載した書目や考証に関する誤りなど多くの問題があるほか、目録が収録していない大量の資料があることなどが分かった。

今プロジェクトでは、こうした問題について訂正や補足をするとともに、中国国内では散逸したが、海外には現存する中国医学関連の古文書146種を新たに収録し、これを基礎に「全国中国医学・中薬珍本善本古籍文書管理システム」を構築した。同時に「中国医学・中薬珍本善本古籍マルチメディアデータベース」を立ち上げ、古文書320種の電子資料を作成し、破損の深刻な一部資料の修復作業を実施。図版約15万ページをデータベースに収録し、ネットワーク版の中国医学古籍電子図書システムがほぼ完成した。

これまでの研究で、宋代の医学書は欠けている箇所が18.7%に達することが分かっている。元代の医学書は6.9%、明代は2.3%。破損した古文書の修復が迅速に行われなければ、このまま失われてしまうおそれがある。古代の医学書の複製や電子資料化の作業は、こうした問題の進行に追いついていない状況だ。調査によると、複製が実現した宋代の医学書は75%、元代の医学書は60%、明代は34%にとどまっている。現状では古文書の保護や利用は難しく、状況の早急な改善が待たれる。

「人民網日本語版」2004年9月7日

## 中国、中医薬分野で世界各国と協力強化へ

---

中国国務院の呉儀副総理は1日、北京で、「中国政府は中医薬分野で、世界各国と協力を強化したい」と述べた。

これは、呉儀副総理が中国を訪問したイタリアのシルキア保健相と会見した際述べたもので、呉儀副総理はその際、「中国の伝統医薬は3000年あまりの歴史があり、医療、保健などの面で独特の特長を持っている」と述べた。

両国の医療衛生分野での協力については、呉儀副総理は、「中国は両国の医薬関係者と企業が協力し、新薬や医療設備を開発することを支持する。また、協力を通じて中国の特色ある高品質の医薬製品をイタリアと欧州連合諸国にすすめることを支持する」と語っている。

「CRI」より 2004年9月2日

## 天津、世界の現代化製造業基地を目指す

---

天津市は国際製造業の方向転換という重要な好機を逃さず、新たな工業化への道を歩み、世界に向けた現代化製造業基地建設に努力している。今後の数年、天津市はハイテク技術産業を発展させ、伝統産業の改造を加速し、電子情報、自動車、化工、冶金、バイオテクノロジーと現代医薬、新エネルギーと環境保護の六大支柱産業の発展に力を傾けることになる。

電子情報産業方面では、さらに国外先進技術、資金、管理、通信関連設備、コンピューター、ディスプレイ、電子エレメント、光通信製品などを導入し、規模の拡大、品種の増大を推進して、全国規模でも重要な電子産業基地を形成させる。2010年までに、電子情報産業売上高は3200億元に到達する見込みである。

自動車工業も天津がその発展に重点を置いている産業である。天津は日本のトヨタの技術を導入し一汽と合作させることによって二強連合を実現させ、今後は中級、高級セダン、エコノミックカー、乗用車、リムジンバスの四種の生産に力を注ぐことになる。2010年までに、セダン60万台を含む自動車総生産量80万台、年間売上高1000億元を達成する見込みである。

天津市は石油化学工業がもたらす強みを十分に利用し、化学工業連鎖の延長、精密加工の発展に力を入れる。千万トン級石油精製装置、百万トン級エチレン生産装置、百万トン級ポリ塩化ビニール生産装置、百万トン級合成樹脂生産装置などを包括する大型石油化学、科学工業装置を建設すると共に、それに相応する精密化工製品生産を発展させることにより、天津を国家級はもとより世界レベルの重要な化工基地に変身させる。2010年までに、化工製品の売上高は1900億元に達する見込みである。

さらに天津市は世界一流の技術設備を導入し、冶金工業に対する改造も推進する。今後の重点的発展方向は石油管材と冷間圧延薄板、亜鉛メッキ板、カラー塗装板を代表とする高級金属製品で、海河下流の冶金工業区に相互補完性、製品連結性、集中度、組合せセットアップレベルの高い冶金精密加工基地を建設する。2010年までに、冶金工業の年間売上高は1000億元を超える見込みである。

バイオテクノロジーと現代医薬産業の発展に力をいれ、2010年までに売上高600億元を実現する。天津は現代化手段を利用して中薬製品のレベルアップを図り、中薬現代化のテンポを加速し、現代中薬産業園など五大基地を建設して、技術含有量の高い一連の製品生産を発展させる。

天津は積極的に新エネルギー及び環境保護産業を発展させる。国家級科学研究事業所に委託して、重点的にリチウムイオン電池、非結晶シリコン太陽電池など自己知的所有権を有する製品生産を発展させ、世界先進レベルのグリーン電池産業基地を建設する。2010年までに、天津新エネルギー及び環境保護産業は500億元以上の売上高を実現する見込みである。

「チャイナネット」2004/05/13

#### 国産 CPU 開発など重要科学技術プロジェクトが進展

---

科学技術部の石定環スポークスマンは4日、国が50億元余りを投じて昨年7月にスタートした重要科学技術プロジェクト12項目が、一定の成果を上げていると表明した。

衆志科技公司、北京神州竜芯修正電路設計公司、数字方舟信息技术公司を中心に進められている国産の組込みCPUとデジタル信号処理装置(DSP)の開発プロジェクト「中国芯」は、技術的に大きく躍進した。

「新薬製造と中薬の現代化」プロジェクトでは、ヒト正常型p53遺伝子を組み込んだアデノウイルスを使ったがん治療薬の開発に成功。遺伝子レベルでがんを治療する世界初の薬剤となった。

「人民網日本語版」2004年3月5日

#### 中国の急性前骨髄球性白血病、5年生存率90%に

---

中国科学院副院長で分子生物学者の陳竺・院士はこのほど上海で行われた報告会に出席し、中国における急性前骨髄球性白血病(APL)の治癒率は、最新統計で90%に達したことを明らかにした。新華社のウェブサイト「新華網」が30日、上海から伝えた。

陳院士は次のように説明する。

中国の科学者は伝統的な哲学思想と医学理念からヒントを得て、分化と消滅を誘導し、患者の血液中のガン細胞を正常に戻す方法を採用している。中国では歴代の科学者たちの努力によって、レチノインや三酸化二ヒ素（亜ヒ酸）などがAPL治療に使われるようになり、化学療法や放射線治療が補助的に用いられている。中国におけるAPL患者の5年生存率は、かつて10%そこそこだったものが今や90%に達している。

「人民網日本語版」2007年5月31日

### 欧州の中国伝統医学専門家が伝統医学の発展を討論

---

ヨーロッパ中国伝統医学・医薬専門家連合会の第三回年次学術総会が先般パリで開催された。ヨーロッパ諸国からの中国伝統医学・医薬の専門家数十人がパリに集い、ヨーロッパにおける中国伝統医学と医薬の発展を討論した。

今回の年次総会は輪番議長、イギリス中国伝統医学・医薬連合会の馬伯英会長が主宰した。馬伯英会長は現在、グローバルな中国伝統医学・医薬のブームが盛り上がっているが、中国伝統医学・医薬の効き目のみに気づくだけでは足りず、実験による証拠がなければ、今後中国伝統医学・医薬は海外でよく立つところを確保することは難しい。このため、中国伝統医学・医薬事業の重点を研究に置かなければならないとすべての参会者に呼び掛けた。

会議において、中国伝統医薬の許認可を受け持っているフランス国家薬品衛生監督管理局のアンリ担当官は、ヨーロッパにおける中国伝統医薬の登記の手続き、流通ルール及び応用の状況を紹介し、今回の年次総会のテーマ「内分泌疾患と中国伝統医学」をめぐって、中国の医学者と外国の医学者はそれぞれ中国伝統医学と西洋医学の角度から内分泌疾患の基本的な理論を要約し、臨床診断及び治療の考え方を提出した。

今回の年次総会の招きで、中国の2人の専門家も会議に参加し、代謝の異常で起こる病気の理論、糖尿病についての理論及び最新の臨床研究の成果を紹介した。甲状腺疾患、乳腺関連疾患、不妊症、糖尿病併発症、更年期の病気、前立腺疾病などの治療の面で特有の経験を持つヨーロッパ諸国からの中国伝統医学と西洋医学の専門家も臨床上の見解を発表した。

伝えられるところによると、ヨーロッパ中国伝統医学・医薬専門家連合会は2001年にローマで創立されたものである。

「チャイナネット」2006年11月20日

<以下は大和総研のレポートです>

COLUMN

2006.09.08

大和総研・新規産業調査部 浅野信久／大城千鶴

### 中医薬品を現代的国際医薬品に育成せよ

－中華人民共和国科学技術部が新たに取り組む中医薬の国際研究開発プログラム

(日本語全文掲載)－

---

中国が「世界の工場」と称されていることは、すでに一般に広く知られている。世界のパソコンのかなりの割合が広州市と深セン市の間の地域で生産されている。衣料、雑貨、玩具、携帯電話、デジタルカメラ、自動車など、いまやハイテク製品、ローテク製品の区別なく、世界のあらゆる分野で中国製品を目にする機会がずいぶん増えてきた。

そして、さらなる戦略として、その世界の工場は医薬品の製造を本格的に手がけようとして動きだしている。実際、このところの中国の医薬産業の進展ぶりには目を見張るものがある。米国FDAの定めた医薬品製造基準であるGMP基準に適合した医薬品工場はすでに国内に存在している。中国FDAは世界に先駆けて、遺伝子治療薬を認可した。遺伝子治療薬は、現在中国国内のみであるが医療用医薬品として販売されている。インドと同様に、ジェネリック薬の製造拠点としても世界中の医薬品メーカーが注目している。

そして、中国が次なる成長戦略の柱の1つとして選択したのが中医薬の国際商品化である。中国では、中医薬は伝統的医療として、古くから広く普及している。だが、現在の新薬とくらべると、有効性や安全性に関する証拠が必ずしも明らかとなっていないものが少なくない上、疾病の予防や治療に未知の可能性を持つものも少なくない。

そこで、中国の科学技術部は、現代医学ではいまだ解決できない治療ニーズや健康増進ニーズに、中医薬で応えることを目標に、このほど新プログラムを打ち出した。このプログラムが、中医薬国際科学技術協力プログラムである。この中の具体的なプログラムとしては、(1)中医薬の重要な難病に対する予防、治療、及び保健に係る臨床研究、(2)国際市場のニーズに合致した現代中医薬品の研究と開発、(3)中医薬品の国際基準と規範の研究、(4)中医薬に関する国際共同研究開発プラットフォームの構築、(5)中医薬品に関する知識の普及、(6)国際共同研究開発に係る人材養成が掲げられている。

また、プログラムの実施にあたっては、中国科学技術部が世界的な専門家から構成される国際的専門家委員会の組織や中国政府に加え外国政府なども拠出する本プログラム向けの基金を設立する計画である。

日本の政府、大学、研究機関、医薬品メーカーも本プログラムに参加し、国際的視野に立った中医薬の発展に寄与するとともに、世界レベルでの疾病の克服と人々の健康増進に貢献されることを期待する。

なお、今回、中国人民共和国科学技術部より、中医薬国際研究開発プログラムの日本語への翻訳と掲載について、許諾を得たので、下記に日本語訳の全文を掲載する。

[中医薬国際科学技術協力プログラム\(PDF\)](#)